

平成30年度

京都市地域リハビリテーション 推進研修プログラム



「地域に帰る」がモットーの地域リハビリテーション
推進センターのPRキャラクター「地域ガエル」です!



京都市地域リハビリテーション推進センター

私たちは、地域リハビリテーションの
より一層の推進や、高次脳機能障害のある
方やからだの動きに障害のある方への支
援等の取組を通じて、障害のある市民の方
が、その人らしくいきいきと地域で暮らし
ていける社会づくりを進めています。



市民による自治120年



京都市
CITY OF KYOTO

平成30年度

京都市地域リハビリテーション推進研修 実施要領

1 目的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実に資するとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方

(1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員

ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス及び相談支援

イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援

ウ 介護保険法による居宅サービス事業（居宅療養管理指導，福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く），地域密着型サービス事業，施設サービス事業

(2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員

(3) 障害のある方を支援する業務に従事している本市職員

(4) 障害者支援等を行っている市内団体等に所属する方

(5) 障害者雇用を進めている企業の方や検討されている企業の方等

3 研修日程及び内容

研修内容一覧のとおり。

4 会場

会場	所在地
京都市地域リハビリテーション推進センター	京都市中京区壬生仙念町 30 （四条御前北西角，ラポール京都の東隣） 次頁地図参照

5 申込方法等

研修申込書に必要事項を記入し，郵送又はFAXにてお申込みください。

申込者1人につき1枚の用紙に御記入願います。

なお，申込書は当センターホームページからダウンロードすることも可能です。

●ダウンロード方法

(1) 「京都市地域リハ」で検索

(2) 「京都市地域リハビリテーション推進センター」をクリック

(3) 「地域リハビリテーションの推進」をクリック

(4) 「地域リハビリテーション推進事業」をクリック

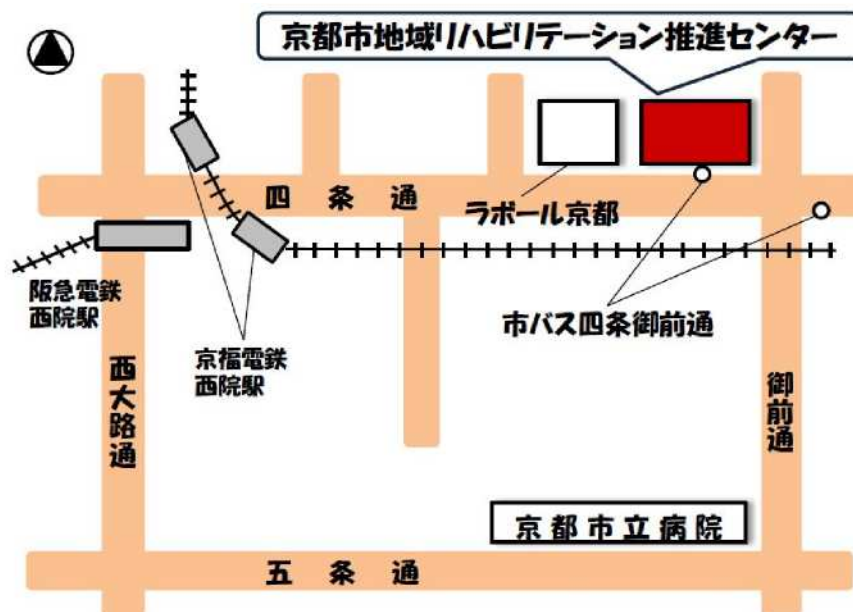
申込先・ 問合せ先	〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30 番地 京都市地域リハビリテーション推進センター相談課 地域リハビリテーション推進担当（岩下・中谷）宛 （TEL 823-1666 ・ FAX 842-1541）
締切	各開催日の3日前（ただし定員に達し次第，締切ります。）

6 受講料
無料

7 受講
受講の可否については当センターより御連絡させていただきます。
参加当日は、研修申込書を御持参のうえ会場までお越しください。

8 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、必ず事前に御連絡ください。
- (2) 締切後においても、定員に達していない等により受講枠に空きがある場合には、
申込を受付けますのでお問い合わせください。
- (3) 聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (4) 自家用車での御来場はできません。公共交通機関等を御利用ください。



※四條烏丸から

市バス（3, 8, 11, 13, 特13, 26, 29, 91, 203系統）で四條御前通下車すぐ

※京都駅から

市バス（26, 28系統）で四條御前通下車すぐ

※阪急電鉄西院駅（北改札口・南改札口）から徒歩3分

※京福電鉄西院駅から徒歩3分

--	--	--

受理印

平成30年度 京都市地域リハビリテーション推進研修（講座）申込書

必要事項を御記入のうえ、該当する□にチェックをしてください。
お一人につき1枚記入してください。

ふりがな			性別	経 験 年 数	年 月 日
申込者氏名			男・女		
	※主に行っている業務を <u>一つ</u> チェックしてください ☐ 生活支援員（指導員） ☐ 相談員 ☐ ホームヘルパー ☐ 看護師 ☐ 機能訓練指導員 ☐ 教員 ☐ ケアマネジャー ☐ 介護職員 ☐ ケースワーカー ☐ 保健師 ☐ 管理者・サービス管理責任者 ☐ 保育士 ☐ その他（ ）				
受講希望日	● 6月26日（火） ☐ 笑い介護 ☐ 傾聴とアサーション				
	● 7月5日（木） ☐ 自立支援に繋げる福祉用具の選定・利用方法				
	● 7月6日（金） ☐ 生活機能向上に向けた取組				
	● 7月19日（木） ☐ 精神障害の基礎知識①依存症 ☐ 精神障害の基礎知識②薬と生活				
	● 7月30日（月） ☐ てんかんの基礎知識				
	● 8月3日（金） ☐ 生活の自立に向けた住宅改修のポイント				
	● 8月7日（火） ☐ 精神障害の基礎知識③ひきこもり ☐ 精神障害のある方の家族支援				
	● 8月28日（火） ☐ 高齢者や障害のある方のフレイル				
	● 9月4日（火） ☐ 発達障害に関する基本的理解 ☐ 大人の発達障害の理解と支援				
	● 9月13日（木） ☐ 運動の不器用さのある子どもたちに対する理解と支援				
	● 9月21日（金） ☐ 感覚特性に応じた施設環境の工夫 ☐ 地域で暮らし続けるために				
	● 9月27日（木） ☐ 医療的ケアの緊急対応 ☐ 医療的ケアが必要な方への地域支援の実践				
	● 10月5日（金） ☐ 性の問題行動への対応				
	● 10月11日（木） ☐ 発達障害の子どもたちとその保護者に対するライフステージに応じた支援				
	● 10月30日（火） ☐ 発達障害のある子どもに見られる睡眠障害について				
	● 11月9日（金） ☐ パーキンソン病・症候群 ☐ 難病の方のQOLを高める在宅自立支援				
	● 11月15日（木） ☐ アンガーマネジメント入門				
	締切は各講座の3日前 ※期日前であっても定員に達し次第締切りますのでお早めにお申込下さい。				
所属している事業所等	名称				
	所在地	郵便番号 ー			
	電話番号	()			
	FAX 番号	()			
事業所等種別	事業分類	☐ 障害 ☐ 介護 ☐ 学校 ☐ 行政機関 ☐ 一般企業 ☐ その他（ ）			
	サービス事業所種別	※主なものを <u>一つ</u> にチェックしてください ☐ 入所 ☐ 通所 ☐ 居宅・訪問介護 ☐ 相談支援事業 ☐ 区役所・支所 ☐ 総合支援学校 ☐ その他（ ）			

--	--	--

受理印

平成30年度 京都市地域リハビリテーション推進研修（実習）申込書

必要事項を御記入のうえ、該当する□にチェックをしてください。
お一人につき1枚記入してください。

ふりがな			性別	経験 年数	年 月 日
申込者氏名			男・女		
	※主に行っている業務を <u>一つチェック</u> してください ☐ 生活支援員（指導員） ☐ 相談員 ☐ ホームヘルパー ☐ 看護師 ☐ 機能訓練指導員 ☐ 教員 ☐ ケアマネジャー ☐ 介護職員 ☐ ケースワーカー ☐ 保健師 ☐ 管理者・サービス管理責任者 ☐ 保育士 ☐ その他（ ）				
受講希望日	●「現場に活かす！お手軽体操編」 ☐ 6月28日（木） ☐ 9月14日（金） ☐ 11月2日（金）				
	●「現場に活かす！ストレッチ編」 ☐ 7月3日（火） ☐ 9月26日（水） ☐ 11月22日（木）				
	●「介助方法 起き上がり編」 ☐ 7月20日（金） ☐ 9月6日（木）				
	●「介助方法 移乗編」 ☐ 8月23日（木） ☐ 11月27日（火）				
	●「トイレに行こう！」 ☐ 7月9日（月） ☐ 10月26日（金）				
	●「お風呂に入ろう！」 ☐ 7月26日（木） ☐ 10月1日（月）				
	●「ご飯を食べよう！」 ☐ 8月1日（水） ☐ 10月18日（木）				
	●「お出かけしよう！」 ☐ 8月27日（月） ☐ 11月6日（火）				
	●「車椅子のシーティング」 ☐ 9月11日（火）				
	●「失語症のグループワーク」 ☐ 10月2日（火）				
	●「ゲームを通したグループワーク」 ☐ 10月25日（木）				
	●「認知症のレクリエーション」 ☐ 11月20日（火）				
	締切は各講座の3日前 ※期日前であっても定員に達し次第締切りますのでお早めにお申込下さい。 ※動きやすい服装でご参加下さい。				
	所属している事業所等	名称			
所在地		郵便番号 ー			
電話番号		()			
FAX 番号		()			
事業所等種別	事業分類	☐ 障害 ☐ 介護 ☐ 学校 ☐ 行政機関 ☐ 一般企業 ☐ その他（ ）			
	サービス事業所種別	※主なものを <u>一つにチェック</u> してください ☐ 入所 ☐ 通所 ☐ 居宅・訪問介護 ☐ 相談支援事業 ☐ 区役所・支所 ☐ 総合支援学校 ☐ その他（ ）			

平成30年度 京都市地域リハビリテーション推進研修 講座一覧

●印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。
★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

日	時間	テーマ・講師
6月26日 (火)	13:30 ～15:00	「笑いと介護 ～日々の笑顔でQOLの向上を！～」 日本笑い学会 介護福祉士 昇 大作 氏
	15:20 ～16:50	「傾聴とアサーション」 株式会社 キャリア開発サポーターズ 代表取締役 浅野 衣子 氏
7月5日 (木)	13:30 ～15:30	「自立支援に繋げる福祉用具の選定・利用方法」● 住まいと介護研究所 所長 理学療法士 主任介護支援専門員 谷口 昌宏 氏
7月6日 (金)	13:30 ～15:00	「地域のリハビリテーション専門職と連携した 生活機能向上に向けた取組」● 株式会社 TRAPE 代表取締役 作業療法士 鎌田 大啓 氏
7月19日 (木)	13:30 ～15:00	「精神障害の基礎知識① さまざま依存症」★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
	15:20 ～16:50	「精神障害の基礎知識② 薬と生活 薬との付き合い方」★ 岡本クリニックメンタルケア室 室長 精神科医 岡本 慶子 氏
7月30日 (月)	10:00 ～11:30	「てんかんの基礎知識～発作時の対応～」 京都市児童福祉センター診療所 小児科医 越智 雅晴
8月3日 (金)	13:30 ～15:00	「生活の自立に向けた住宅改修のポイント」● 有限会社 サニープレイス 代表取締役 一級建築士 岡村 英樹 氏
8月7日 (火)	13:30 ～15:00	「精神障害の基礎知識③ ひきこもり～入門編～」★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
	15:20 ～16:50	「精神障害のある方の家族支援」★ 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 福祉生活デザイン学科 准教授 佐藤 純 氏
8月28日 (火)	13:30 ～16:10	「高齢者や障害のある方のフレイル」● ～フレイルと口腔ケア～ 水野歯科医院 院長 水野 昭彦 氏 ～フレイルと栄養食事ケアの実際と注意点～ 京都大学医学部附属病院 疾患栄養治療部 副部長 幣 憲一郎 氏

日	時間	テーマ・講師
9月4日 (火)	13:30 ～15:00	「発達障害に関する基本的理解」 京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長 精神科医 村松 陽子
	15:20 ～16:50	「大人の発達障害の理解と支援 ～当事者として伝えたい思い～」 NPO 法人 DDAC 発達障害をもつ大人の会 代表 広野 ゆい 氏
9月13日 (木)	9:30 ～11:30	「運動の不器用さのある子どもたちに対する理解と支援」 畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター 特任助教 理学療法士 信迫 悟志 氏
9月21日 (金)	13:30 ～15:00	「利用者の感覚特性に応じた施設環境の工夫 ～スヌーズレン・感覚統合の視点から考える～」 株式会社 アニマシオン プレイジム・代表 作業療法士 太田 篤志 氏
	15:20 ～16:50	「障害のある方が地域で暮らし続けるために」 社会福祉法人西陣会 統括責任者 浅田 将之 氏
9月27日 (木)	13:30 ～15:10	「医療的ケアの緊急対応とリスクマネジメント」 公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 小児科医 出島 直 氏
	15:30 ～17:00	「医療的ケアが必要な方への地域支援の実際」 訪問看護ステーション あおぞら京都 看護師 松井 裕美子 氏
10月5日 (金)	10:30 ～12:00	「性の問題行動への対応 ～知的障害・発達障害の児童・青年期の理解と支援～」 立命館大学産業社会学部 大学院人間科学研究科 教授 宮口 幸治 氏
10月11日 (木)	10:00 ～11:30	「発達障害の子どもたちとその保護者に対する ライフステージに応じた支援」 神戸市総合療育センター診療所 所長 小児科医 高田 哲 氏
10月30日 (火)	13:30 ～15:00	「発達障害のある子どもに見られる睡眠障害について」 同志社大学赤ちゃん学研究センター センター長 教授 小児科医 小西 行郎 氏
11月9日 (金)	13:30 ～15:00	「パーキンソン病・症候群の疾患理解と支援の実際」 畿央大学 健康科学部 理学療法学科 准教授 理学療法士 岡田 洋平 氏
	15:20 ～16:50	「難病の方の QOL を高める在宅自立支援」 医療法人 梁山会診療所 院長・理事長 田中 直樹 氏
11月15日 (木)	13:30 ～15:00	「怒りに振り回されない!! 怒りをパワーに!! ～アンガーマネジメント入門～」★ 上島医院 デイ・ナイトケアセンター 施設長 精神保健福祉士 川端 大輔 氏

定 員	64名
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室

平成30年度 京都市地域リハビリテーション推進研修 実習一覧

日	時間	テーマ・講師
6月28日（木）	10:00～11:30	「現場に活かす！運動メニュー実践のコツ ～お手軽体操編～」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士
9月14日（金）	15:00～16:30	
11月2日（金）	13:30～15:00	
7月3日（火）	15:00～16:30	「現場に活かす！運動メニュー実践のコツ ～ストレッチ編～」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士
9月26日（水）	10:00～11:30	
11月22日（木）	13:30～15:00	
7月20日（金）	15:00～16:50	「現場で役立つ！介助方法 ～起き上がり編～」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士
9月6日（木）	13:30～15:20	
8月23日（木）	13:30～15:20	「現場で役立つ！介助方法 ～移乗編～」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士
11月27日（火）	15:00～16:50	
定 員	8名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室	

日	時間	テーマ・講師
7月9日(月) 10月26日(金)	13:30～16:40	「トイレに行こう！」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士 作業療法士
7月26日(木) 10月1日(月)	13:30～16:40	「お風呂に入ろう！」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士 作業療法士
8月1日(水) 10月18日(木)	13:30～16:40	「ご飯を食べよう！」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 作業療法士 言語聴覚士
定 員	6名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 4階 ADL室	

日	時間	テーマ・講師
8月27日(月) 11月6日(火)	13:30～16:40	「お出かけしよう！」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士 作業療法士
定 員	6名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 3階 体育館	

日	時間	テーマ・講師
9月11日（火）	13:30～16:30	「車椅子のシーティング ～崩れた座位への対処法あれこれ～」 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 理学療法士 作業療法士 義肢装具士
定 員	30名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 3階 体育館	

日	時間	テーマ・講師
10月2日（火）	10:00～12:00	「失語症の方も一緒に楽しめるグループワーク」 京都市地域リハビリテーション推進センター 言語聴覚士
10月25日（木）	13:30～15:30	「ゲームを通したグループワーク」 京都市地域リハビリテーション推進センター 心理判定員 作業療法士
定 員	6名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 ミーティングルーム	

日	時間	テーマ・講師
11月20日（火）	14:00～16:00	「認知症の方のレクリエーション」 大阪府レクリエーション協会 公認講師 牧野 文恵 氏
定 員	30名	
場 所	京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室	



笑い介護～日々の笑顔でQOLの向上を！～

平成30年6月26日(火) 13:30～15:00

近年、笑いの健康効果についての注目度は高く、数々の研究結果も報告されています。介護現場で笑いを創り、笑顔になることは、五感を通して脳を活性化していくことに繋がります。

日々の生活の中で、より多くの笑いを引き出すためには、どうすればよいのでしょうか。笑いを生むユーモアセンスを磨いて、利用者の皆さんから満面の笑顔を引き出しましょう！



<講師>

のぼり だいさく
昇 大作氏

日本笑い学会 介護福祉士

- ・認知症ケア専門士
- ・社会福祉主事
- ・歯科技工士

所属学会

日本笑い学会

日本介護福祉士会

認知症ケア学会

高齢者住宅でホーム長をしながら、介護施設や地域などで「認知症」や「介護と笑い」に関する講演活動中！

また人生を幸せにする為のコーチや、介護職員になる為の初任者研修や、実務者研修の資格取得を求める人への講師業にも力を注いでいる。

人の心に寄り添い、「最高の思い出作り」を支援する中、様々な出会いと別れがあり、「笑い」のある時間はとても貴重です。人生とは何かを考え、共に生きる時間の大切さを学びましょう。

傾聴とアサーション

平成30年6月26日(火) 15:20～16:50

相談支援の場において、「傾聴すること」は最も重要です。それと同じくらい「きちんと伝える」ことも重要です。

本講座では、相談支援において、より良い人間関係を築くために「傾聴」ときちんと伝えるスキルとしての「アサーション」について学びます。



<講師>

あさの きぬこ
浅野 衣子氏

株式会社
キャリア開発サポーターズ
代表取締役

大学卒業後、(株)阪急百貨店に入社し、人材育成・能力開発に携わる。

2001年4月よりキャリアカウンセラーとして若者から中高年者のキャリア開発支援に従事。

キャリア開発に関わる相談・指導・講演で活躍するとともに、キャリアカウンセラーの養成教育にも携わっている。

自立支援に繋げる福祉用具の選定・利用方法

この研修は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。

平成30年7月5日(木) 13:30~15:30

需要が増え続けている福祉用具・健康用具への新規参入が相次いでいますが、利用者の機能や能力に適合した用具で、正しい使い方をしてこそ自立支援に繋がります。

本講座では、利用者の的確な心身の状態把握と用具の選定方法、正しい使用方法について実技デモも含めて学習していただきます。



<講師>

たにぐち よしひろ
谷口 昌宏氏

住まいと介護研究所 所長
理学療法士
主任介護支援専門員

1982年 行岡医学技術専門学校 卒業
1982年 河内総合病院
1984年 大阪市更生療育センター
(大阪市立心身障害者リハビリセンター訓練部門)
1996年 大阪市社会福祉協議会
ケアマネジャー・地域包括支援センターの業務。
市社協事務局にて市内の全包括支援センターの
後方支援業務に従事
1996年7月 大阪市社会福祉協議会退職
2012年8月 住まいと介護研究所 開設
大学・専門学校等での非常勤講師の傍ら、全国で幅広く講演
活動をしています。

地域のリハビリテーション専門職と連携した 生活機能向上に向けた取組

この研修は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。

平成30年7月6日(金) 13:30~15:00

自立支援の視点で生活支援、地域づくり、多職種連携を実践しているリハビリテーション専門職から、生活機能向上に向けた機能訓練の考え方や地域資源の活用、実践方法など、事例を交えて学びます。



<講師>

かまた ともひろ
鎌田 大啓氏

株式会社 TRAPE 代表取締役
作業療法士

2005年 作業療法士免許取得
病院勤務を経て、医療法人の複数介護事業所のセンター長として
介護保険の原点である「自立支援」を軸とした介護サービスを展
開し、同時期に、吹田市介護保険事業者連絡会会長もつとめる。
2015年 『ひとを創り、地域の未来を創る』を理念として株式
会社 TRAPE を設立。国の調査事業、市町村・介護事業所の本質創
りのサポートを事業として展開。
2017年~大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 地域ヘ
ルスケアシステム科学研究室 招聘教員

主な著書・論文(掲載誌名)

- ★地域づくりに向けて住民・他職種とコラ
ボするプロジェクトの展開(作業療法ジ
ャーナル 2016)
- ★コンサルタント業という新しい作業療法
士のあり方の実践(臨床作業療法 2017)
- ★コンサルティング業の立ち上げと現状に
ついて(特集 起業入門)(大阪作業療法
ジャーナル 2017)

社会活動等

寝屋川市地域支援事業(総合事業)アドバイザー
大阪府介護予防普及展開事業アドバイザー
大阪府作業療法士連盟 幹事

精神障害の基礎知識① さまざまな依存症

この研修は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

平成30年7月19日(木) 13:30~15:00

近年、アルコールや覚醒剤以外への依存症が話題となることがあります。

本講座では、アルコールや薬物、ギャンブルなどのさまざまな依存症について理解を深めるとともに、その背景にある問題と支援の基礎について学びます。

<講師>

はとこ まさき
波床 将材

京都市
こころの健康増進センター
所長 精神科医

大学病院で研修後、精神科病院、総合病院精神科で臨床医として勤務。

2004年 京都市こころの健康増進センターに勤務。

2011年～ 現職

- ・精神保健指定医
- ・日本精神神経学会認定 精神科専門医

京都市こころの健康増進センターは、市民の皆さんへこころの健康についての情報の提供をはじめとして、相談援助や精神障害のある方への社会参加の促進などに取り組んでいます。

精神障害の基礎知識② 薬と生活 薬との付き合い方

この研修は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

平成30年7月19日(木) 15:20~16:50

精神障害のある方は、適切な薬物療法を行うことによって症状のコントロールが可能となる場合も多く、上手に薬と付き合うことが安定した日常生活を送る上で重要になります。

本講座では、服薬を要する代表的な精神疾患である統合失調症を例に、薬の基礎知識、効果や副作用、服薬がむずかしいとき、服薬しても消えない症状（幻聴や妄想）があるときなどについて臨床現場から学びます。

<講師>

おかもと よしこ
岡本 慶子氏

岡本クリニック
メンタルケア室
室長 精神科医

12年間、京都市こころの健康増進センターにて精神障害のある方のリハビリテーションと心理社会的療法・グループ療法に従事

2011年 岡本クリニックメンタルケア室開設

専門分野は統合失調症の心理社会的治療・リハビリテーション

- ・精神保健指定医
- ・日本精神神経学会認定 精神科専門医
- ・京都精神神経科診療所協会理事

当事者から学ぶことを大切にしています。
講座では、当事者の経験談を交えてお話します。

てんかんの基礎知識～発作時の対応～

平成30年7月30日(月) 10:00～11:30

てんかん発作を繰り返し起こす「てんかん」とはどんな病気でしょうか？ てんかんにはさまざまな種類があり、人によってその発作の様子も違います。発作か否かの判断や、初期対応、その後の対応に困らぬよう、てんかんについての基礎知識を学習し、各発作の特徴についての正しい理解と、発作の観察や対応のポイントなどについて理解を深めます。



<講師>

お ち まさはる
越智 雅晴

京都市児童福祉センター診療所
小児科医

1976年 京都府立医科大学医学部卒業
1990年 京都市児童福祉センター診療科部長
2005年 同センター発達相談所長
2016年 同センター退職

著書

★『けいれん性疾患：てんかんを中心に診断から生活指導まで』（東山書房 1990）

退職後も非常勤医師として同センター勤務。京都府立医科大学附属病院小児神経外来や京都市児童福祉センター診療所で、発達に障害のある子どもさんやてんかん患者さんを長年診療してきました。

生活の自立に向けた住宅改修のポイント

この研修は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。

平成30年8月3日(金) 13:30～15:00

高齢の方や、障害のある方の生活は、住環境に左右されやすく、支援者にとっても介助しやすい環境を作ること、介助負担を軽減することができます。

本講座では、支援者の方に、現場で使える重要なポイントや困ったときに役立つ発想法、成功に導く秘訣など、事例を通して住環境整備について分かりやすくお話いただきます。



<講師>

おかむら ひでき
岡村 英樹氏

主な著書

★『PT・OT・ケアマネにおける建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本』（三輪書店 2007）
★『リハビリテーションの常識・非常識』（共著）（三輪書店 2009）
★『地域リハビリテーション学テキスト』（共著）（南江堂 2012）

有限会社サニープレイス
代表取締役
一級建築士

1987年 大阪大学工学部建築学科卒
1989年 大阪大学大学院前期課程建築工学専攻 修了
1989年 日本電信電話 株式会社 建築事業部
1995年 三輪司法書士事務所
1997年 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所
（兵庫県立総合リハビリテーションセンター）
1998年 岡村英樹建築設計室 設立
2001年 有限会社 サニープレイスに組織変更

精神障害の基礎知識③ ひきこもり～入門編～

この研修は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

平成30年8月7日(火) 13:30～15:00

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、その実態は多彩です。一方で、ひきこもっている方それぞれの問題を整理することで、支援の糸口がみえてくることもあります。本講座では、ひきこもり支援のために必要な基礎的な知識について学びます。

<講師>

はとこ まさき
波床 将材

京都市
こころの健康増進センター
所長 精神科医

大学病院で研修後、精神科病院、総合病院精神科で臨床医として勤務。

2004年 京都市こころの健康増進センターに勤務。

2011年～ 現職

- ・精神保健指定医
- ・日本精神神経学会認定 精神科専門医

京都市こころの健康増進センターは、市民の皆さんへこころの健康についての情報の提供をはじめとして、相談援助や精神障害のある方への社会参加の促進などに取り組んでいます。

精神障害のある方の家族支援

この研修は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

平成30年8月7日(火) 15:20～16:50

精神に障害のある方とその家族（親、配偶者、きょうだい、子どもなど）が、地域でその人らしく豊かに暮らせる支援とは何か。家族自身のQOLも視野に入れる必要性や支援のあり方について考えます。

また、地域生活を支援する支援者の役割や多職種との連携について、理解を深めます。



<講師>

さとう あつし
佐藤 純 氏

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部
福祉生活デザイン学科 准教授

1986年 関西大学文学部教育学科卒業

1988年 関西大学大学院文学研究科教育心理学専修修了

1988年 京都府入職（精神保健福祉相談員）

2006年～現職

現在の主な研究テーマは「精神に障害のある人の家族支援」

主な著書・論文（掲載誌名）

- ★何をするのが家族の支援になるのか～精神に「障害」のある人の家族支援の経験から（精神医療 65号 vol.140, 2012）
- ★高齢を迎える精神障害のある人とその家族を支援する（特集 精神障害者の老いについて）（精神保健福祉 vol.47, No. 1 第105号, 2016）
- ★「メリデン版訪問家族支援」『精神保健医療福祉白書 2018-地域社会での共生に向けて』（共著）（中央法規 2016）

高齢者や障害のある方のフレイル

この研修は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。

平成30年8月28日(火) 13:30~16:10

フレイルとは、加齢とともに心身の機能（運動機能や認知機能）が低下した状態のことであり、年齢が高くなるほどフレイル状態の高齢者や障害のある方の割合は増加します。フレイルは、生活の質（QOL）を低下させる原因となりますが、早期に気づき、適切に予防すれば要介護状態に至る可能性を減らすことができます。

★13:30~15:00 「フレイルと口腔ケア」

本講座では、フレイルとはどのような状態のことか、また、口腔機能低下の早期発見や機能維持・向上のための効果的な口腔ケアについてポイントを学びます。



<講師>

みずの あきひこ
水野 昭彦氏

水野歯科医院 院長

1985 年 大阪歯科大学 卒業

1992 年 1 月 京都市にて開業

2011 年 4 月~2013 年 6 月 京都府歯科医師会 公衆衛生部副委員長

2013 年 6 月~2015 年 3 月 京都府歯科医師会 地域保健部次長

2015 年 4 月~現在 口腔サポート事業プロジェクトリーダー

京都府歯科医師会口腔サポートセンター

主任所員

著書

★『呼吸からみた摂食機能障害』（分担執筆）（中山書店 2012）

★15:10~16:10 「フレイルと栄養食事ケアの実際と注意点」

口腔機能と栄養状態は密接に関連しており、低栄養はフレイルを重症化させます。本講座では、適切な栄養摂取と食事ケアについて、居宅や施設などでの取組など具体例も交えてお話いただきます。



<講師>

しで けんいちろう
幣 憲一郎氏

京都大学医学部附属病院
疾患栄養治療部 副部長
京都府栄養士会 副会長

1986 年 3 月 甲子園大学 栄養学部栄養学科 卒業

1986 年 4 月 伊丹市立伊丹病院 栄養士

1986 年 10 月 香川医科大学医学部附属病院 管理栄養士

2001 年 3 月 京都大学医学部附属病院 病態栄養部 栄養管理室長

2013 年 4 月 京都大学医学部附属病院 疾患栄養治療部 副部長

2014 年 3 月 京都女子大学大学院（学術）博士号 取得

著書（共著等）

★『ケースに学ぶ栄養管理・食事指導エキスパートガイド』（南山堂 2015）

★『モチベーションUP 糖尿病教室』（南山堂 2013）

★『ケーススタディで学ぶ臨床栄養学実習』（化学同人 2011）

★『臨床栄養管理法ー栄養アセスメントから経済評価までー』（健帛社 2011）

発達障害に関する基本的理解

平成30年9月4日(火) 13:30~15:00

発達障害について、より正確に知識を整理し、理解を深めます。また、発達障害のある方はどのような場面で困難さが生じ、発達障害の方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすればよいのか、事例を通して適切な支援方法を考えます。



<講師>

むらまつ ようこ
村松 陽子

京都市発達障害者支援センター
「かがやき」センター長 精神科医

専門は児童精神医学、発達障害

1991年 京都児童福祉センターにて勤務

1998-1999年 米国ノースカロライナ大学 TEACCH 部にて自閉症支援について研修

2005-2009年 よこはま発達クリニック勤務

2009年 京都市児童福祉センター勤務

2010年 京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長兼務

主な著書

★『自閉症の TEACCH 実践』（共著）

（岩崎学術出版社 2002年2月）

★『自閉症の人たちを支援するということ』監修

（朝日新聞厚生文化事業団 2001年3月）

京都市発達障害者支援センターかがやきは、「相談支援」「就労支援」「発達支援」「普及啓発・研修」の4つの機能を併せ持つ機関で、発達障害のある方とそのご家族が地域で安定して生活できるよう支援する総合的なセンターです。

大人の発達障害の理解と支援 ～当事者として伝えたい思い～

平成30年9月4日(火) 15:20~16:50

発達障害のある大人の方が、社会で直面するさまざまな問題とは何か、そしてそれぞれの特性や能力を活かして生活するために必要な支援とはどのようなことなのでしょうか。

本講座では、発達障害当事者としての、ご自身の過去や支援者としての経験を踏まえて、二次障害の克服、必要な生活支援や就労支援などについてお話いただきます。



<講師>

ひろの
広野 ゆい氏

NPO 法人 DDAC
（発達障害をもつ大人の会）代表

専業主婦であった 28 歳のときにうつ病、31 歳のときに ADHD と診断される。

2002 年に大人の発達障害のグループ関西ほっとサロン、2008 年 4 月に、発達障害をもつ大人の会（現・NPO 法人 DDAC）を立ち上げる。

NPO 法人 DDAC（発達障害をもつ大人の会）は、ADHD・LD・ASD をもつ大人の当事者が、二次障害を克服し、より良い社会生活を行うとともに、その特性を活かし地域社会にも貢献できるよう、当事者支援事業および、一般社会に向けた啓発活動を行っています。

運動の不器用さのある子どもたちに対する理解と支援

平成30年9月13日(木) 9:30~11:30

ASD（自閉症スペクトラム障害）やADHD（注意欠如・多動性障害）の子どもたちは、運動の不器用さ（発達性協調運動障害）という特性を持っていることが多いと言われています。「バランスを崩して頻繁に転倒する」「靴紐がうまく結べない」「字がうまく書けない」など、日常生活での運動に困難さが現れます。本講座では、そのような子どもたちに対する理解を深め、具体的な個別の支援方法について学びます。



<講師>

のぶさこ さとし
信迫 悟志氏

畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター
特任助教 理学療法士

2001年 神戸総合医療介護福祉専門学校理学療法学科卒業
2009年 畿央大学大学院健康科学研究科修士課程修了
2012年 畿央大学大学院健康科学研究科博士課程修了
2015年 畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター特任助教

現在、大学での研究活動、小・中学校特別支援学級訪問巡回事業、講演活動等を多数行う。

主な著書・論文・学会発表

- ★『子どもの感覚運動機能の発達と支援 発達の科学と理論を支援に活かす』（分担）（メジカルビュー社 2018）
- ★ Deficits in visuo-motor temporal integration impacts manual dexterity in probable developmental coordination disorder. (Frontiers in Neurology, 2018)
- ★ Transcranial direct current stimulation of the temporoparietal junction and inferior frontal cortex improves imitation-inhibition and perspective-taking with no effect on the Autism-Spectrum Quotient Score. (Front Behav Neurosci. 2017)
- ★ 小児期の微細運動機能と視覚-運動時間的統合能力との関係性. (日本発達神経科学会第6回大会, 2017, 大阪.)

利用者の感覚特性に応じた施設環境の工夫 ～スヌーズレン・感覚統合の視点から考える～

平成30年9月21日(金) 13:30~15:00

障害福祉サービス事業所や特別支援学校などでは、さまざまな障害特性を持った人が同一空間で過ごしていることから、自傷行為や他害行為などのトラブルが生じることもあります。発達障害や知的障害を有する人の感覚特性を考慮した物理的・人的環境を整えることで、それぞれが快適にその場で過ごすことができます。本講座では、スヌーズレンや感覚統合という視点を活かし、利用者中心の環境整備の考え方についてお話いただきます。



<講師>

おおた あつし
太田 篤志氏

株式会社 アニマシオン
プレイジム・代表 作業療法士

1990年 長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業
1999年 広島大学大学院医学系研究科修了
重症心身障害児施設へ勤務し最重度知的障害児に対する作業療法を実践。現在は、株式会社アニマシオン プレイジム・代表、姫路獨協大学・客員教授。

主な著書

- ★『イラスト版 発達障害児の楽しくできる 感覚統合：感覚とからだの発達をうながす生活の工夫とあそび』（合同出版 2012）
- ★『手先が不器用な子どもの感覚と運動を育む遊びアイデア 感覚統合を活かした支援のヒント』（明治図書出版 2017）

主な社会活動

日本感覚統合学会 常任理事
日本スヌーズレン協会 理事
日本自閉症スペクトラム学会 理事

障害のある方が地域で暮らし続けるために

平成30年9月21日(金) 15:20~16:50

障害のある方が、住み慣れた地域で自分らしく生活していくためには、どのような支援があればよいのでしょうか。できないことがあっても、それを補うシステムさえあれば、困らずに生きることができます。

本講座では、京都市における障害者支援の現状と課題、また、困り事が生じたときの関係機関との連携の取り方、地域の方々とのつながり方などについてお話いただきます。



<講師>

あさだ まさゆき
浅田 将之氏

社会福祉法人西陣会 統括責任者

1994年 4月 財団法人西陣会京都市民福祉センター 嘱託職員
1995年 11月 社会福祉法人西陣会 西陣児童館職員
2002年 4月 社会福祉法人西陣会 法人事務局長
2003年 4月 西陣会居宅サービス係 所長兼務
2006年 10月 デイセンターふらっと 所長兼務
2013年 4月 社会福祉法人西陣会 常務理事・法人統括責任者

地域で働く人々の福祉を向上することを目的に設立された法人の活動は、集うボランティアたちが交流しながら主体となって、その時々々の地域課題と向き合い、さらに活動を展開してきました。

2003年支援費制度以降、特に障がいのある方々やご家族の安心できる暮らしの実現を目指して居宅介護等事業、生活介護事業、地域活動支援センター（余暇型）等を開始しました。2カ所の地域生活支援センターの受託運営、障がいのある中高生のタイムケア事業、グループホーム、ショートステイ、制度外では障がいのある方が暮らすシェアハウス、サービス付き障がい者住宅のような住まいの運営等、様々なニーズに寄り添い、それぞれの地域で住民と一緒に日常的、具体的に安心できる地域生活支援に取り組んでいます。

医療的ケアの緊急対応とリスクマネジメント

平成30年9月27日(木) 13:30~15:10

医療的ケアが必要な子どもは年々増加傾向にあります。日常生活を送る上で必要な痰吸引や経管栄養について理解を深めます。またケア中のトラブルに対する緊急対応やリスクマネジメントについて学びます。いざという時慌てないために、何度も学習していただきたい内容です。なお、吸引等の法制化についての疑問にも答えていきます。



<講師>

でじま すなお
出島 直氏

公益社団法人京都保健会
京都民医連中央病院 小児科医

1989年京大医学部卒業後、京都民医連中央病院などで小児科医として働き、1994年鳥取大学医学部脳神経小児科、1995年以後京都民医連中央病院などで、主に重症心身障害やてんかんを持つ子どもたちの診療をしている。また医療的ケアの普及、充実のためにNPO法人医療的ケアネットの理事として活動している。

主な著書・論文（掲載誌名）

- ★『「医療的ケア」はじめの一步
介護職の「医療的ケア」マニュアル』
（杉本健郎編 分担執筆）
（クリエイツかもがわ 2009）
- ★『医療的ケアとその実践と課題
地域での暮らしを支える連携』
（チャイルドヘルス 2011；8：1-）
- ★『どうなってんの？医療的ケア「一部法制化」NPO法人医療的ケアネット編』
（分担執筆）
（クリエイツかもがわ 2012）

医療的ケアが必要な方への地域支援の実際

平成30年9月27日(木) 15:30~17:00

医療的ケアが必要な重度障害があっても、支援体制を整えることによって、在宅で生活することが可能になります。安心して生活していただくために、本講座では、実際に訪問看護サービスに携わる講師から、サービスの内容、医療的ケアで実際に起こったトラブルや対応方法、また、多職種との連携などについてお話いただきます。

<講師>

まつい ゆみこ
松井 裕美子氏

訪問看護ステーション あおぞら京都 看護師

1981年 京都府立医科大学附属看護専門学校卒業
京都府立医科大学附属病院
京都赤十字血液センター等で勤務
1999年 京都府医師会看護専門学校
2012年 はるたか会 あおぞら診療所
2013年 5月 訪問看護ステーション
あおぞら京都を立ち上げる

訪問看護ステーションあおぞら
京都は、0歳から100歳まで24時間
365日支えられるステーション
でありたいと、スタッフ一同、北は
岩倉から南は城陽まで走り回って
います。

性の問題行動への対応

～知的障害・発達障害の児童・青年期の理解と支援～

平成30年10月5日(金) 10:30~12:00

性の問題はとてもデリケートです。知的障害や発達障害があれば、異性への純粋な思いも時には不適切な関わりにつながることもあり、利用者間等でのトラブルに発展してしまう場合があります。対応に苦慮すること多い子どもや青年の性の問題行動について理解を深め、支援者としてできる具体的な支援方法について学習します。

<講師>

みやぐち こうじ
宮口 幸治氏

立命館大学産業社会学部
大学院人間科学研究科
教授

京都大学工学部卒業
神戸大学医学部医学科卒業
神戸大学医学部附属病院精神神経科
大阪府立精神医療センターにて勤務
2009年 法務省矯正局宮川医療少年院法務技官
児童精神科医として勤務
2015年 交野女子学院(女子少年院)医務課長
2016年～現職

主な著書

- ★『性の問題行動をもつ子どものためのワークブック—発達障害・知的障害のある児童・青年の理解と支援』(共著)(明石書店 2015)
- ★『教室の困っている発達障害をもつ子どもの理解と認知的アプローチ—非行少年の支援から学ぶ学校支援』(単著)(明石書店 2017)

社会活動

少年院矯正教育から学校教育等へ応用した効果的な支援法について教育・心理・福祉・医療の観点で行う「コグトレ研究会」を主宰し、全国で研修を行っている。

発達障害の子どもたちとその保護者に対する ライフステージに応じた支援

平成30年10月11日(木) 10:00~11:30

すべての障害において、ライフステージで途切れることのない継続的な支援が必要ですが、発達障害においては、そのライフステージごとに特有の問題が生じ、支援課題は変化します。

幼児期では“子どもが理解しやすい環境づくり”が中心ですが、成長に伴い“ルールを守る、友達と気持ちを共有する、自分で決定する”などが重要になります。同時に、家族に対する支援も必要です。本講座では、各ステージでの課題を理解し、変化やニーズに応じた支援を行えるように学びます。



<講師>

たかだ さとし
高田 哲氏

神戸市総合療育センター
診療所 所長 小児科医

1985年 神戸大学 大学院医学研究科博士課程修了
2000年 神戸大学大学院保健学研究科教授
2018年 神戸大学名誉教授

主な委員歴

日本小児科学会 代議員
日本小児保健学会 評議員
日本小児精神神経学会 理事

日本小児神経学会 評議員
日本赤ちゃん学会 評議員

主な著書・論文（掲載誌名）

- ★大規模災害が障がいのある子どもたちに及ぼす影響と支援（発達障害研究 2015）
- ★発達障害児と家族のための支援教室運営とその課題（教育と医学 2014）
- ★発達障害をもつ児に対する、医療と保育所・幼稚園・学校との連携（小児内科 2010）
- ★『子育て支援のための子ども保健学—精神運動発達の特徴と評価—』（共著）（日本小児医事出版社 2012）
- ★『ADHDの発達と行動特徴』（共著）（ミネルヴァ出版 2011）

発達障害のある子どもに見られる睡眠障害について

平成30年10月30日(火) 13:30~15:00

睡眠は子どもの心と身体の発達に大きな影響を及ぼします。そして、近年、睡眠障害が子どもの言語・認知・運動の発達を阻害し、学習意欲や学力にも大きく関係していることが明らかにされています。また、睡眠障害のある子どもの中には発達障害があるケースも多いといわれています。本講座では、発達障害のある子どもに見られる睡眠障害について理解を深め、その対応について考えます。



<講師>

こにし ゆくお
小西 行郎氏

同志社大学赤ちゃん学研究センター
センター長 教授 小児科医

京都大学医学部卒業後、同大学附属病院未熟児センター助手

1983年 福井医科大学小児科講師

1988年 同大学助教授

1990年 文部省在外研究員としてオランダ、フローニンゲン大学にて発達行動学を学ぶ

1999年 埼玉医科大学小児科教授に就任

2001年 東京女子医科大学 乳児行動発達学講座 教授

2008年~現職

2013年~2017年 子どもの睡眠と発達医療センター センター長

所属学会

日本赤ちゃん学会理事長、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本発達神経科学学会、新胎児学研究会、日本子ども学会、日本発達心理学会

主な著書

- ★『発達障害の子どもを理解する』（集英社 2011）
- ★『実践臨床小児睡眠医学』（編・共著）（診断と治療社 2015）
- ★『赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本』（中央法規出版 2016）

パーキンソン病・症候群の疾患理解と支援の実際

平成30年11月9日(金) 13:30~15:00

パーキンソン病は、全身のこわばり、ふるえ、動きの緩慢さ、バランス障害など、運動障害を主とする病気です。また、認知症や脳卒中、抗精神病薬の副作用でもこのような症状が生じることがあり、日常的に小刻み歩行やすくみ足を呈する方はよく見かけます。

しかし、これらの症状を有する方に対して、少しの環境調整や声かけなどの工夫で、本人の動きの潜在能力を引き出すこともでき、介助量が軽減することも多々あります。本講座では、それらの具体的な支援方法について学びます。



<講師>

おかだ ようへい
岡田 洋平氏

畿央大学 健康科学部
理学療法学科 准教授 理学療法士

2004年 理学療法士免許を取得。リハビリテーション専門病院にて病院勤務を始め、パーキンソン病をはじめとした神経疾患の臨床と臨床研究に努める。

2009年 畿央大学健康科学修士

2012年 大阪府立大学大学院にて保健学博士号取得

主な著書・論文(掲載誌名)

- ★岡田洋平, 他 パーキンソン病の歩行障害に対するリハビリテーション—Up to date— Medical Science Digest44(3):60-63, 2018
- ★『パーキンソン病に対する標準的理学療法』(分担)(文光堂 2014)
- ★『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ. パーキンソン病(関連疾患としてPSPを含む).』(分担)(メジカルビュー社 2015)

社会活動

パーキンソン病友の会奈良支部リハビリ担当
パーキンソン病患者会みどりの会顧問
奈良県難病相談支援センター医療相談員

難病の方のQOLを高める在宅自立支援

平成30年11月9日(金) 15:20~16:50

ALS や筋ジストロフィー、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症など、進行性の神経難病の方は、病状の進行とともにADLが低下していきませんが、ADLの低下そのものが、直接的にQOLの低下に結びつくとは限りません。本講座では、主な神経難病の症状について理解を深め、どのような支援体制があれば、本人が望む生き方をサポートできるのか、事例や過去の経験を踏まえてご紹介いただきます。



<講師>

たなか なおき
田中 直樹氏

医療法人 梁山会診療所
院長・理事長

1992年 京都府立医科大学神経内科部研修医

1993年 近江八幡市民病院神経内科医員

1996年 京都府立医科大学神経内科部門助手

1999年 公立南丹病院神経内科副医長

2001年 国立舞鶴病院神経内科医長

2002年 医療法人梁山会診療所理事長・院長

- ・日本神経学会員・同学会専門医
- ・日本内科学会員・同学会認定内科医

当診療所で、難病デイケア、訪問診療、訪問リハビリ等のサービスを提供しながら、難病患者の「在宅自立支援」を行っています。患者さんのあらゆるニーズに応えるべく、日々悪戦苦闘しています。

怒りに振り回されない!!怒りをパワーに!! ～アンガーマネジメント入門～

この研修は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。

平成30年11月15日(木) 13:30～15:00

『怒り』について学んでみませんか？日々の業務に慌ただしく追われ、自分、職場、利用者様にまでイライラしてしまうことはありませんか？その中で毎日疲れていないですか？

怒りに振り回されず、無駄に怒らない支援者になれば更により支援を行えるでしょう。そのきっかけになるアンガーマネジメントについてお話いただきます。



<講師>

かわばた だいすけ
川端 大輔氏

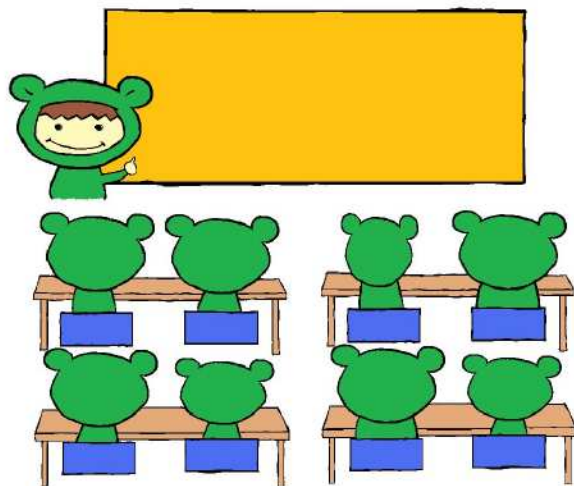
上島医院 デイ・ナイトケアセンター
施設長 精神保健福祉士

2006年 医療法人上島医院 入社
2008年 精神保健福祉士 取得
2013年 上島医院デイ・ナイトセンター施設長 就任
2016年 一般財団法人 日本アンガーマネジメント協会
アンガーマネジメントファシリテーター取得

「アンガーマネジメント」とは怒りと上手に付き合う手法・技法です。

活動実績

障害福祉・介護分野（認知症家族会、精神科デイナイトセンタースタッフ、地域の自立支援協議会、地域ケアマネジャー連絡会、支援者を含む市民講座、高齢の方のグループなど）で働く方へのアンガーマネジメント講座の講師を担当する。



トイレに行こう！

平成30年 7月9日(月) 10月26日(金) 13:30~16:40

「トイレに行く」ということは、尿意や便意の知覚、コントロール、トイレへの移動、下衣の上げ下ろし、座位保持、後始末など、さまざまな動作・認知能力が要求されます！

排泄を行うために必要な心身機能・能力を理解、福祉用具の選定や環境整備、介助の仕方などを体験しながら学びます。



お風呂に入ろう！

平成30年 7月26日(木) 10月1日(月) 13:30~16:40

入浴動作には、脱衣所までの移動、更衣、洗体、浴槽への出入りなど必要な動きがたくさんあります！

入浴動作に必要な身体機能を理解し、福祉用具の選定や環境整備、介助の仕方などを実際に体験しながら学びます。

ご飯を食べよう！

平成30年 8月1日(水) 10月18日(木) 13:30~16:40

食事は、生命維持のための栄養補給の他、生きがいを感じる場、他者とのコミュニケーションの場として、重要な意味を持ちます！

食事に関連する、身体機能、姿勢、動作、自助具、嚥下機能や心理的側面、口腔ケア、コミュニケーションなどを学びます。

★カップに入ったゼリーとスプーンを持参して下さい。(お弁当に入れるミニタイプは不可です。)

お出かけしよう！

平成30年 8月27日(月) 11月6日(火) 13:30~16:40

「外出する」ことは、介護予防やQOL 向上の効果もあります！安全に楽しく外出するために！

歩行補助用具、短下肢装具、車椅子、電動車椅子など体験しながら学びます。



大人気！「～しよう！4シリーズ」

定員6名の少人数で楽しく体験できます！

講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士です！

動きやすい服装でご参加ください。



現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～お手軽体操編～

NEW!

平成30年 6月28日(木)10:00～11:30

9月14日(金)15:00～16:30 11月2日(金)13:30～15:00

NEW!

- ・加齢に伴い、転倒回数が増えてきた…
- ・移乗の介助量が増えてきたが、筋力が落ちてきている？
- ・立ち上がりにかかるようになってきた…
- ・機能維持のための運動メニューを知りたい。
- ・利用者が一人で安全にできる運動メニューはないの？



そんな疑問やお困りごとにお答えし、運動をする際のコツについて実習を通してお伝えします。

運動量が減ると筋力は低下し、日常生活動作に影響を及ぼします。また、加齢とともに筋力は低下します。介助量を増やさないため、また、利用者のQOLを低下させないため、日頃から簡単にできる運動を学び、よりよい支援を実践してみませんか？

★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士です。

現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～ストレッチ編～

NEW!

平成30年 7月3日(火)15:00～16:30

9月26日(水)10:00～11:30 11月22日(木)13:30～15:00

NEW!

- ・最近、関節が硬くなり介助量が増えてきた…ストレッチしたほうがいいのか？
- ・痛みを我慢してまでもストレッチしたほうがいいのか？
- ・1日何回くらいしたらいいの？何秒くらい伸ばせばいいの？
- ・支援者の手が回らず、マンツーマンでは介入できない…利用者が自分で簡単にできるストレッチはないの？



そんな疑問やお困りごとにお答えし、ストレッチをする際のコツについて実習を通してお伝えします。

体の硬さは人それぞれ違います。障害により、体が硬くなりやすい場合もあります。その人にとって必要な部位を適切な強度でストレッチすることによって、機能維持や機能改善につなげることができます。日頃、現場で抱えている疑問を解決し、利用者がよりよい生活を送れるような支援を実践してみませんか？

★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士です。

NEW!

現場で役立つ！介助方法

介護や福祉の現場では、多くの職員が腰痛に悩まされています。利用者の能力を最大限引き出すことによって、介助者にかかる負担も少なくなり、利用者の機能維持にも繋がります。数ある介助方法の中から、利用者の身体の状態に合わせて、その状況に適した介助方法を選択できるように学んでみませんか。

～起き上がり編～

平成30年 7月20日(金)15:00～16:50
9月6日(木)13:30～15:20

NEW!

「起き上がり編」では、寝ている状態から座るまでの動きのしくみを分解して考え、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について実習を通して学びます。



★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士です。

～移乗編～

平成30年 8月23日(木)13:30～15:20
11月27日(火)15:00～16:50

NEW!

「移乗編」では、立ち上がりや方向変換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせた様々な種類の移乗方法などを実習を通して学びます。



★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士です。

車椅子のシーティング～崩れた座位への対処法あれこれ～

平成30年9月11日(火) 13:30～16:30

座位の崩れでお困りではありませんか？

車椅子の座り方は、身体の安定性や動きやすさ、生活意欲にも関係します。

座位の崩れの原因とその解決方法、座りなおしの介助方法、様々なクッションや身近な物での代用、車椅子の調整方法などを学びます。



★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの理学療法士、作業療法士、義肢装具士です。

失語症の方も一緒に楽しめるグループワーク

平成30年10月2日(火) 10:00~12:00

失語症のある方同士の相互のやりとりを促す活動は、満足度の高いコミュニケーションの機会となるとともに、自分の状態を客観的に受けとめるきっかけになります。

失語症の理解を深め、失語症のある方も共に楽しめるレクリエーション活動を考える機会となる体験を行います。



※日常業務で失語症のある方に接しておられる方が受講対象です。

★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの言語聴覚士です。

ゲームを通したグループワーク

平成30年10月25日(木) 13:30~15:30

高次脳機能障害がある方などに対してグループ訓練を実施することは、自己・他者意識、意欲を促進させ、集中力を高めるのに有効といわれています。

今回の実習では、高次脳機能障害の方を対象に、当センターで実施しているグループワークを体験していただきます。また、その中で見られた利用者の変化や気づきをご紹介します。

※事業所などでグループワークを実施したいと思っている方やされている方が受講対象です。

★講師は京都市地域リハビリテーション推進センターの心理判定員、作業療法士です。

認知症の方のレクリエーション

平成30年11月20日(火) 14:00~16:00

介護の現場では、健康への効果や QOL を向上させるためにレクリエーションを取り入れているところが増えています。手先や体、言葉や歌を使うレクリエーションが脳を活性化するとされています。

本講座では、認知症の方のレクリエーションを効果的に行うための基本的なポイントとレクリエーションの紹介をしていただき、実際の体験を通して学びます。

<講師>

まきの ふみえ
牧野 文恵氏

大阪府レクリエーション協会公認講師

介護福祉士 介護支援専門員

認知症ケア専門士 介護予防運動指導員

老人保健施設ひかり勤務、ヘルパーステーション明勤務

摂津福祉専門学校非常勤講師、箕面学園福祉保育専門学校非常勤講師

梅田東社協、長岡京財団で脳活性化の講師

地区福祉委員、JA 北大阪ボランティア部会でのレクリエーション活動

NPO 法人ナルク茨木・摂津拠点（ボランティア） 現在に至る。



お問い合わせは
当センターまで

事業案内

障害福祉サービス事業所等訪問支援事業

相談依頼を受けて、障害福祉サービス事業所等に当センターの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を中心としたリハビリ専門職員が訪問し、利用者の身体機能や動作・運動の介助方法等について、支援者の方にアドバイスをします。

【ご相談内容の例】

- 機能低下を防ぐ関節の動かし方や筋肉のストレッチ方法等を教えてほしい。
- 作業をする時に姿勢を保つことが難しくなってきたが、対処方法は？
- 排泄や入浴動作で負担の少ない動き方や介助量を減らす支援方法を知りたい。

失語症のある方の相談支援事業

失語症とは、脳出血等の脳血管疾患の後遺症で物の名前が出てこない、言おうと思ったことをうまく話せない、音は聞こえるのに言葉が理解できないなどの症状があります。言語聴覚士が中心となって、利用できるサービスを一緒に考え、サービスの利用先へ失語症のことを説明するお手伝いをします。また、ご家族のよりよいコミュニケーション方法などを検討します。

高次脳機能障害者支援センター

ご本人やご家族、関係機関等から高次脳機能障害に関する相談をお受けし、支援コーディネーター等専門スタッフが支援を行います。

また、障害について正しく理解していただくためにご本人、ご家族への講座や、障害福祉サービス事業所、医療機関等の支援者の方への研修等を実施しています。

地域ガエルのお出かけ講座

市内に在住、在学、在勤する方が10人以上集まる集会、市内の障害福祉サービス事業所等や医療機関等において10人以上が集まる研修会を対象に、当センターの専門職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、高次脳機能障害者支援コーディネーター等）が出向いて講座を開催します。

京都市地域リハビリテーション推進センター

住 所 〒604-8854
京都市中京区壬生仙念町30
電 話 (075) 823-1666
FAX (075) 842-1541



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(平成30年5月)
京都市印刷物 第 303042号